

中大規模分譲では まちづくりの付加価値も重要に

また、中大規模の戸建分譲では、建物のプランだけでなく、まちづくりという点からもコロナ禍に対応した取り組みが進められている。

例えば、ポラスグループは従来から居住者コミュニティの醸成に力を入れ

ているが、コロナ禍では、直接顔を合わせた交流の機会を作ることが難しいというのが実情だ。このため、オンラインのテレビ会議システムを通じた交流の機会を作り、コミュニティ醸成のサポートを行っている。

また、コロナ禍で家庭菜園のニーズが高まっているが、昨年7月に販売を開始した埼玉県春日部市の戸建分譲住宅「ハナミズキ春日部・藤塚」(22棟)では、隣地に約300㎡の市民農園を確保し、農家の指導を仰ぎながら、「農ある暮らし」が実現できるようにもし

ている。こうした付加価値が奏功し、1月18日時点では、22棟中21棟が販売済みとなっており、「思っていた以上の売れ行き」と、コミュニケーション部伊藤賀一部長は話す。

中大規模の戸建分譲では、立地や建物以外にも、まちづくりで付加価値を創出することができる。特に、コロナ禍では自宅近くで過ごす時間が増えているだけに、分譲事業者はまちづくりで付加価値を創出することで、分譲住宅の訴求力を高めることができるだろう。



ポラスグループの埼玉県春日部市の戸建分譲住宅「ハナミズキ春日部・藤塚」では、隣地に約300㎡の市民農園を設ける